

今こそ高教組 仲間を増やし、職場や地域から要求実現を！

1月26・27日、加古川で「ひょうご教育のつどい」が開催され、のべ300名を越える参加者で成功裡に終わりました。20～30代の青年教職員の参加が増えてきており、「教育のつどい」に新しい流れが作られつつあります。参加した青年教職員の感想には「わいわいと話し合いができて楽しかった」「誘われて渋々参加してレポートしたけど、良かった」と、自由に討論ができ、学びあえる「教育のつどい」の良さが表現されていました。

学校や生徒の実態を考えて授業をしたいという思いを青年教職員はもっています。高教組が9月に実施した勤務実態調査に「子どもたちの声を聴き、より良い教育をしたい」との青年教職員の書き込みがありました。いま多くの教職員が共感できる声です。しかし、多忙化が常態化している中、教職員のゆとりのなさにつけ込むかのように、指導内容から方法までを画一化する「スタンダード化」がおしすすめられています。教育内容だけでなく教える方法まで指図する改訂学習指導要領をテコに、政権にとって都合のいい価値観を押しつけ、戦争ができる国づくりや人づくりがすすめられているのです。

9月の超勤実態調査では「土日も出勤して家庭がぎくしゃくすることがある」「休むとそのしわ寄せで自分が苦しくなる」「割振りは忙しくて取れない」との声があり、教職員の長時間過密労働の実態が改めて明らかとなりました。これらの声も受けて高教組は11月に賃金権利確定交渉に臨みました。なかでも青年部役員は青年部の交渉だけでなく、最終盤の交渉までそろって参加しました。そして、超勤縮減と臨時教職員からの強い要求でもあった「空白の一日」の解消で県教委を迫りし改善を迫りました。結果、「空白の一日」を今年度末で解消させることができました。

いま、より良い授業をしたい、より良い生活をしたい、などの思いから、青年教職員の高教組への加入が進んでいます。しかし、それは青年教職員に限ったことではなく、全職員の半数を超える確定署名を集める私たち高教組に対して、未組合員からも多くの期待が寄せられ、注目されています。

全国で行われている「安倍改憲NO! 3000万署名」は、現在2,000万筆に迫り、この力が、沖縄知事選で辺野古の基地建設に反対する知事を生み、国会に改憲案の提案すらできないところに迫り込んできています。市民が声をあげれば社会が動き、職場で組合員が動けば要求は実現します。いまこそ、私たち組合員は運動に誇りと自信を持って未組合員に積極的に声をかけ、加入を呼びかけましょう。

仲間を増やし、みんなで語り合い、学び合い深め合うことで教え子を再び戦場に送らせない高教組を更に大きく発展させましょう。

2019年2月2日

兵庫県高等学校教職員組合 第191回中央委員会